

プレスリリース

2024年7月19日

オットーボック・ジャパン株式会社

パリ 2024 パラリンピック競技大会 過去最大規模の修理サービスセンターで選手をサポート

パリ 2024 パラリンピックが8月28日に開幕します。オットーボック(本社：ドイツ・ドゥーダーシュタット)はオフィシャルサポーターとして、参加する4,400人の選手や大会関係者に対して修理サービスを提供します。

パラリンピックの選手たちは、大会前や大会中に当センターで機器のメンテナンスと修理サービスを無償で受けることができます。センターで働く技術者は、車いす、義肢、装具など、競技用のみならず日常用の機器の修理サービスを提供します。

オットーボックは30年以上の経験とノウハウで、持ち込まれる多種多様な依頼に対応し、選手が最大限のパフォーマンスを発揮できるようサポートします。

パリ 2024 大会修理サービス概要

- 選手村に720m²の修理サービスセンター設置
- 14競技会場にサテライトの修理サービスブースを設置し、緊急修理を提供
- サービス提供期間：8月18日~9月10日 8:00~23:00 (24日間) *8月18日~20日は10:00~18:00
- 義肢装具士、車いす技術者、溶接技術者をはじめとしたスタッフ合計164名。世界41カ国からのスタッフが32言語で対応。うち女性が36.6%。
- 全選手と運営関係者を対象に、競技用機器および日常用機器のメンテナンスと修理を無償で提供
- 機器のブランドやメーカーを問わない
- 24時間緊急ホットラインあり
- 選手村ポリクリニック内では、怪我をした選手に対し、装具を無償提供
- 開閉会式で各国の旗手が使うフラッグホルダーを、車いすや選手の身体の状態にあわせて設置



修理サービスセンターには、車いすや義足が次々と運びこまれます。競技が始まるまでに修理を完了するために、チームワークで修理をします。 © Getty Images for Ottobock



修理サービスセンターには、義肢装具士、車いす技術者に加え、溶接技術者も在籍 © Getty Images for Ottobock

オットーボックについて

- オットーボックは義肢、装具、車いすのリーディングサプライヤーとして、疾病や怪我などにより動きを制限された人々がモビリティを取り戻したり、維持したりできるよう、最新技術とリハビリテーションを組み合わせたモビリティソリューションを提供しています。1919年にドイツで創業し、現在、グローバルネットワークを通して全世界に製品、技術、サービスを供給しています。オットーボックのスポーツラインナップには走行用板バネ、スポーツ用膝継手、ラグビーやバスケットボール用車いすなどがあり、障害のある人々が陸上競技や球技を楽しむことを可能にしています。
- 1988年ソウル大会以降30年以上の長きにわたり、パラリンピック競技大会にて修理サービスを提供し続けています。2005年からはパラリンピックのワールドワイドパートナーとして、パラリンピックムーブメントを支援しています。
- 2012年から、パラリンピックの金メダリスト、ハインリッヒ・ポポウ指導のもと、世界各国で下肢切断者を対象としたランニングクリニックを開催し、パラリンピックに出場する選手も輩出しています。

オットーボック・ジャパン株式会社について

オットーボック・ジャパン株式会社は、1999年にオットーボック社の日本法人として設立され、最先端の医療福祉機器の普及に向けて様々な取組みをスタートさせました。

【本リリースに関する取材問合せ先】

オットーボック・ジャパン（株） マーケティング

担当：吉田 茜（ヨシダアカネ） 直通電話：03-6739-4092 携帯：080-3351-4962

E-Mail： akane.yoshida@ottobock.co.jp